

歯・口腔の健康の評価及び現状・課題

評価指標	分野	項目内容	方向性
目標に達した	歯・口腔の健康	60歳代における進行した歯周炎を有する者の減少	さらなる向上を目指す
		3歳児でう歯がない児の割合の増加	
		12歳人の一人平均う歯数の減少	
		過去1年間に歯科検診を受診した者の増加	受診率向上を目指す
い達目 ないし いてに		40歳代における進行した歯周炎を有する者の減少	後期5年間に於いて目標を達成するために、現在の対策を継続・拡充により改善を目指す

歯周病を有する人の割合

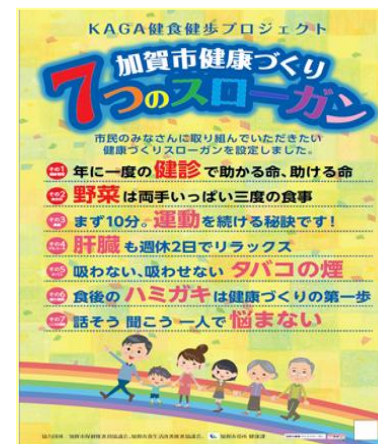
		平成27年 度	平成28年 度	平成29年度
全年代	受診者数	97人	92人	104人
40歳代	受診者数	22人	15人	21人
	歯周炎を有する割合	52.6%	81.3%	90.0%
60歳代	受診者数	22人	21人	22人
	歯周炎を有する割合	87.0%	67.9%	95.8%

＜参考＞ 平成28年度 県
40歳代 58.3% 60歳代 65.6
%

19歳以上の市民を対象とした歯周病検診では、受診者数は少ない状況にありますが、歯周炎を有する人の割合は、高い状況にあります。

これまでと平成30年度の取組み

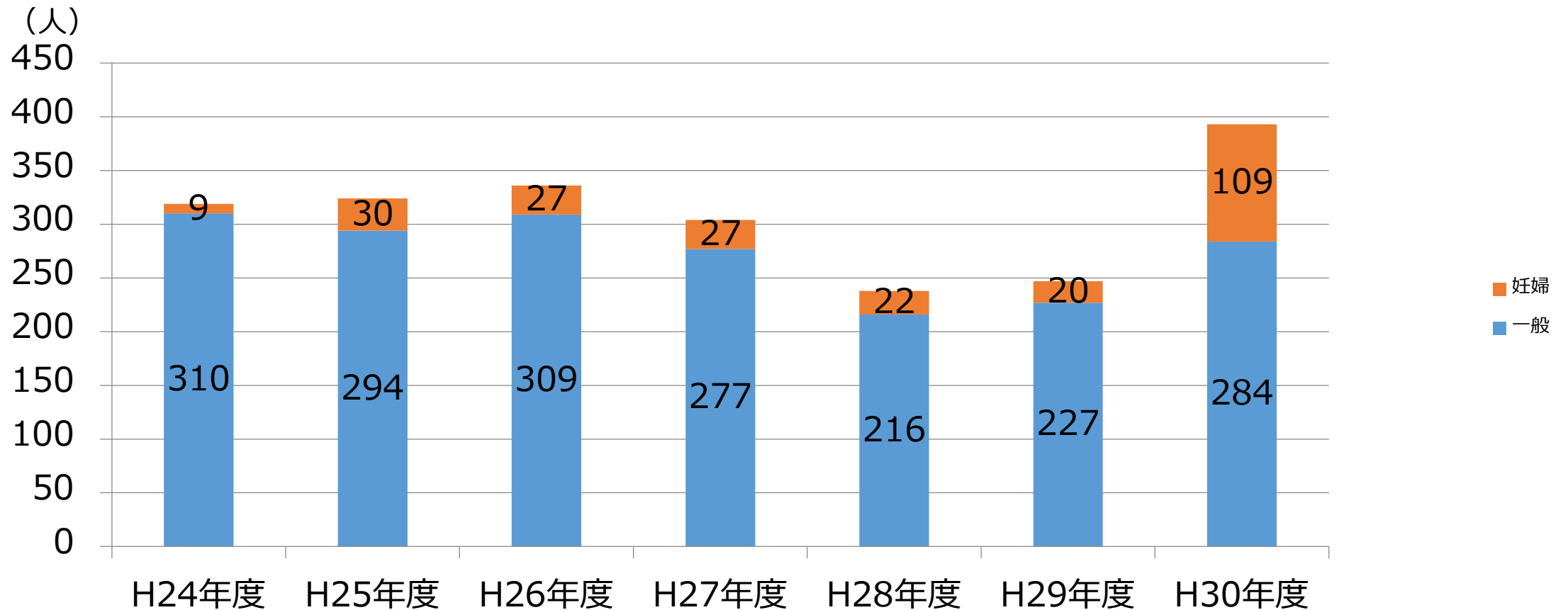
- 平成22年度～ 歯周病検診の実施(年3回)
- 平成23年度～ 歯と口の健康週間行事の実施(年1回)
- 平成29年度～ 加賀市糖尿病協議会と連携した、糖尿病重症化予防における歯周病予防の啓発普及(ポスター作成)
- 平成30年度～ 妊婦歯科健診(個別)の開始
健康づくりスローガンによる啓発普及
“食後のハミガキは健康づくりの第一歩”



歯科検診の実施体制(平成30年度)

事業名	実施方法	実施回数	対象
歯と口の健康週間行事	集団検診	年1回	加賀市民 (小児のフッ素塗布あり)
歯周病検診	集団検診	年3回	19歳以上の加賀市民
妊婦歯科健診	医療機関委託個別健診	通年	妊娠中の加賀市民

一般(歯と口の健康週間行事・歯周病検診)及び妊婦の歯科健診受診者数の年次推移



成人の歯科検診は集団検診4会場（歯科検診1回・歯周病検診3回）実施しており、受診者数は、200～300人で推移している。1回の行事と3回の集団検診だけでは受診者数は少ない。妊婦においては、平成30年度より医療機関での検診を開始したことにより、4～10月の7か月間の実績ではあるが受診者数は増加している。

主な歯・口腔の健康への影響

- ① 歯周病と糖尿病・循環器疾患との関連性が指摘されていることより、成人期における歯周病予防は重要課題である
- ② 歯周炎が顕在化し始めるのは40歳以降と言われており、高齢期においても歯周病対策を継続して実施する必要がある
- ③ 歯・口腔の健康状態を保つために定期的な歯科検診が重要である
- ④ 妊娠中の歯周病は、低出生体重児（出生体重2,500g未満）や早産（在胎週数37週未満）のリスクを高める

<現状からの課題>

健診体制について

- ・歯周病検診の回数が少ない
- ・検診受診事後フォロー体制
(集団検診から歯科医療機関の受診につながり難しい)
- ・検診会場の環境の不備(適切な照明等が整備できない)

かがし健康応援プラン21中間評価においての 健康分科会委員の意見

「特定健診には歯科の検診がないのはなぜか」と前から思っていた。自身も歯周病がひどくなりかけて歯を失いかけて大変だったので、それから定期的に管理するようになった。

一般の方は大丈夫だと思いながらひどくなってしまうということがあると思うので、特定健診の周知啓発だけではなく、歯科検診や口腔機能のこと、噛むことで認知症の予防が出来るとか、健康への影響がすごく大きいと聞いているのでそういう部分の啓発をもっとすべきである。

<今後の更なる取組み(案)について>

- ①40歳代から歯周炎の割合が80%以上となるため、妊婦のみならずその手前となる世代からの歯周病検診の強化



定期的に受診しやすい歯周病検診体制が求められる

- ・医療機関での歯周病検診
- ・歯と口の健康週間行事での歯周病検診の実施

- ②生活習慣病予防においても歯周病を予防することも重要であることから、歯周病予防の啓発普及を強化



- ・健幸長寿講座等による歯周病予防についての知識の啓発普及
- ・健康づくりスローガンを活用した啓発普及の推進
- ・糖尿病協議会と連携した啓発普及及び定期的な歯周病検診勧奨